

1 この教材を選んだ理由

本単元は、「標識と言葉」「調べたことを発表しよう」の二つの教材で構成されている。子どもたちは、教科書の説明文「標識と言葉」を読み取ることによって、標識と言葉の関係についての問題意識をもち、「つたえる」ということについて考えることができる。続く教材「調べたことを発表しよう」では、多彩な学習活動が紹介されている。

この実践では、子どもたちが興味・関心をもって学習に取り組めるように、標識クイズ大会の開催を目ざすことにした。子どもたちが標識についての情報を主体的に収集・処理・創造・表現し、発表する活動が「情報活用の実践力」を伸ばすと考えたからである。

特に、必要な事柄を収集・選択して、標識について調べたり考えたりしたことを書く活動は、「まとめる」という力を身につけさせるものである。

2 学習のねらいと流れ

■学習のねらい

- ・標識と言葉について興味をもち、文章を正しく読み取る。
- ・必要な事柄を収集し、標識について調べたり考えたりしたことを書く。
- ・標識について調べたこと、考えたこと、自分で考案した標識のことを、説明したり報告したりする。



教科書三年(下) 56、57ページ

■単元の指導計画(総時数18時間)

次(時)	学習活動	活用機器
一(1)	・学習の計画を立てる。	
二(2～6)	・教材文を読み、標識が伝えるものについて考える。	
三(7～12)	・標識集めや標識調べをして標識クイズを作り、標識クイズ大会をする。	・デジタルカメラ ・パソコン ・プレゼンテーションソフト ・プロジェクタ ・スクリーン ・スキャナ
四(13～18)	・学校や学級で使う標識を考えて作り、発表会をする。	

3 活動の流れ

「第一次 第1時」学習の計画を立てる。

標識クイズ大会を開催することをつかませ、学習の計画を立てさせた。長い単元であるので、学習の計画を示して見通しがもてるようにした。

「第一次 第2時～6時」教材文を読み、標識が伝えるものについて考える。

教材文「標識と言葉」を読んで、標識がある場所や標識の組み合わせ、標識が使われるようになった理由について考えた。その後、教科書P57・58にある十四枚の写真の標識を言葉に置き換える練習をした。

「第二次 第7時～12時」標識集めや標識調べをして標識クイズを作り、標識クイズ大会をする。

教科書三年(下) 58、59ページ





① 標識集めや標識調べをする。

遠足や社会見学、社会科や総合的な学習の時間での校外学習の際に、グループに一台はデジタルカメラを持たせて活動している。標識集めについては、道路や施設設備などで標識を見つけたら、デジタルカメラで写真を撮るように指示をした。

さらに、授業後や土日に標識集めをしたいと希望する子どもにはデジタルカメラを貸し出した。また、親のデジタルカメラを使って撮影したい子は、記録メディアでの提出でもよいことにした。そうしたところ、全員が授業後や土日の標識集めを希望した。今年度は学年当初よりデジタルカメラを使った活動が多かったため、学年末に近いこの時期にはかなり上手に撮影できるようになっていた。

② 「標識整理カード」に記入する。

自分が取材してきた標識については、「標識整理カード」にまとめさせた。

まず、コンピュータルームで「標識整理カード」のテンプレートを示して、画像を写真枠に貼り付けさせてプリントアウトさせた。この作業はすぐに終わるので、後の文章にまとめる時間を多く確保することができた。

子どもたちの多くは交通標識を集めてきたが、中には、工事現場にある標識や公共施設内の標識、製品についている標識なども集まった。

それぞれの標識の写真が貼り付いた「標識整理カード」に、教科書P61の児童作品例を参考にして標識を説明する文章をまとめさせた。

まとめさせる内容は、「意味」「場所」「工夫・どうして使われていると思うか・感想など」とした。中には、次の例のようにデジタルカメラで撮ったからこそ書けた標識の工夫もあった。

夜にこのひょうしきを写したら、フラッシュの光が当たってうき上がるようにとれました。このひょうしきには、夜でも光が当たると光って見えるような工夫があります。それは、夜で暗くても車を運転している人にこのひょうしきが見えるように、車のライトが当たると光るようにしているのだと思います。

③ 標識クイズを作る。

作成した「標識整理カード」の中からクイズにしたい標識を選んでクイズ大会のための資料を作ったが、今回は子ども用のプレゼンテーションソフトを活用した。

まず、一枚目のシートに標識と問いかけの言葉を、二枚目のシートにその標識の意味を含めた説明を書かせた。子どもたちは、「標識整理カード」を見ながらシート作りをしたので、スムーズに作っていくことができた。

④ 標識クイズ大会をする。

標識クイズ大会では、一人一人が前に出て、プレゼンテーションソフトを操作しながら問題を出して説明していった。全員が興味をもって発表をしたり聞いたりしていたが、特に、「工夫・どうして使われていると思うか・感想など」で自分では気がつかなかった部分の発表があると、おおいに盛り上がった。

「第四次 第13時～18時」学校や学級で使う標識を考えて作り、発表会をする。

まず、学校や学級にあるといいなと思う標識を考え、画用紙に標識を書いてスキャナでそれを取り入れた。そして、標識クイズ大会と同じパターンで資料作り、発表会を行った。おしゃべり禁止、けんか禁止、けが注意、ポイ捨て禁止など、ユニークな標識がたくさんできあがってきた。これらの標識の「意味」「使う場所」「工夫」などを文章にまとめることは、標識クイズ大会での経験が生かされてとてもスムーズに行うことができた。

この連載で紹介する実践事例は、光村図書ホームページ「光村チャンネル」にて紹介していきます。